外部評価委員：松岡 誠一郎 徳堂 康彦 森田 俊秀 鈴木 康介 田中 悟志 金子 純平
野口 敏朗 石井 卓之

報告書作成者：野口 敏朗

評価時期 令和 6年 3月

1 重点目標の評価

重点目標1「主体的に考え、課題解決できる力を育成する」について

評価項目である「個に応じた指導や習熟度別少人数指導の工夫・改善や問題解決型授業の推進」では、保護者の88%、児童の91%が肯定的に捉えている。特に「わかりやすい授業の展開」については93%、「丁寧な学習指導」についても83%の保護者が良好としている。また、学習習慣の定着のための「家庭学習（宿題）」の提示についても96%の保護者が良好と捉えている。一方、学校においても「現下の教育課題に応じた研究主題の設定と計画的・組織的な実施」や、その充実のための「若手研修やICT研修の適時性のある実施」についてすべての教員が達成していると回答している等、目標に迫るための努力が伺われる。今後は、これらの成果を踏まえ、「課題解決できる力」の育成への方策の具体化を期待する。

重点目標2「自分も他人も大切にする『人間形成力』を育成する」について

評価項目である「道徳の授業の充実や異学年交流活動の充実」では、保護者の95%、児童の93%が良好としている。具体的には、「思いやりや規範意識の育成」について93%、「約束やルールへの遵守の指導」については94%の保護者が学校の指導を認めている。また、「異学年交流活動」についても96%の保護者が「意図的な異年齢活動を設定している」と回答するなど、学校の取組は高く評価できる。一方、「児童の道徳価値の変容」を評価指標としていることから、学校が求める「道徳的価値」と「価値の変容を見た児童の姿」とはどのようなものなのかを具体的に示す工夫を期待したい。

重点目標3「自ら体力づくりや健康維持について考え、行動できる実践力を育成する」について

評価項目である「マイスクールスポーツの計画的・継続的な取組の推進と体育の授業や体育的行事への取組姿勢の意識改革」については、97%の保護者、86%の児童が肯定的に捉えている。学校は「マイスクールスポーツや多様な運動の経験を通して体力の向上を目指す」とし、様々な運動を提示していることから、学校の指導についての保護者の理解は高い。具体的には持久走重点甸間の設定とその記録会の実施や月1回の縄跳びday、臨海学校での時間泳の設定が、「体力づくりへの意識改革」につながる活動と高く評価したい。また、「食育の推進」についての保護者の理解も83%と高いことも「実践力の向上」に結びつくものである。

2 今後の改善に向けた意見

学校の自己評価や児童・保護者へのアンケート調査は、適切に実施されていて、その集計や分析も良好であり、来年度への大きな指針となっている。そもそも、すべての教育活動は「学校教育目標」に迫るものである。したがって、各重点目標も「学校教育目標」を強く意識して設定されたい。具体的には、校長が示す学校経営のテーマである「新しい価値を自ら見出す力を育成する教育活動の推進」を視野に入れて、「よく考える子」を重点目標として、児童に「考えさせる場」を多く提供し、考えを導き出すことを通して、考える力伸ばそうとする学校の姿勢や、「相手の気持ちを考え」、「思いやり」がもてるようにする場を設定し、自分の体のことを知り、自分の健康について考え、「健康管理ができるたくましい児童の育成」を目指す取組は、今後の予測困難な社会を生き抜く力の醸成のためにもより一層、継続、強化されたい。そのためにも、学校教育目標を具現化できるための、具体的な「評価項目」と「評価指標」の設定は不可欠であることを教職員で共有されたい。

3 その他の意見

校長の学校経営方針を踏まえ、教職員が協働し、有為な児童の育成に励んでいることが拝察できる。地域の学校に対する理解度も高く、協力的であることから、地域人材の学校教育への参画のあり方も、より具体化し、一層の協力を求めてもらいたい。

外部評価委員：松岡 誠一郎 徳堂 康彦 森田 俊秀 鈴木 康介 田中 悟志 金子 純平
野口 敏朗 石井 卓之

報告書作成者：石井卓之

評価時期 令和 6年 3月

1 重点目標の評価

重点目標1「主体的に考え、課題解決できる力を育成する」

・学校の評価指標が「児童の学習に対する主体性や創意工夫に関する項目において肯定的な回答で80%を目指す」となっており、児童アンケートの結果は91%、保護者アンケートで88%、教員アンケートで95%となっていることから目標は達成できた。

・「よくあてはまる」についてみると、保護者が44%、児童が44%、教員が0%であり教員は特に校内研究の成果に焦点化して評価していると拝察する。思考ツールの活用効果は感じているが、次年度は児童の伸びを実感することでより評価が上がることを期待したい。

重点目標2「自分も他人も大切に『人間関係形成力』を育成する」

・学校の評価指標が「児童の思いやりに関する項目において、肯定的な回答で80%を目指す」となっている。保護者、児童、教員の三者の肯定的な評価が全て90%を超えていることから目標は達成できた。

・評価項目が、「道徳」「縦割り班活動等の異学年交流」となっており、どちらがより肯定的評価に影響を与えたのかは、今回の集計からは読み取れなかった。アンケートの下位項目に、道徳と縦割りに関した質問を入れることで学校が必要とするデータが収集でき、改善策につながると考える。次年度の改善を図ってほしい。

重点目標3「自ら体力づくりや健康維持について考え、行動できる実践力を育成する」

・学校の評価指標が「児童の運動への取り組みに関する項目において、肯定的な回答で90%以上を目指す」となっている。保護者と教員の評価はそれぞれ97%、96%であり、達成できた。児童はやや低く84%となっているものの、概ね達成できた。特に、児童が通年で瞬発力や調整力、持久力等の向上目標を立て取り組んでいることは高く評価できる。

2 今後の改善に向けた意見

・重点目標1の評価項目が「①個に応じた指導や習熟度別少人数指導の工夫・改善、②問題解決型授業の推進」の2項目となっている。児童アンケートでは「学習問題や学習活動に、よく考え、工夫しながら取り組んでいますか」、保護者アンケートに対する学校の考察では、「放課後補修教室や算数の少人数指導等の個の課題に応じた取り組み等が評価された」としている。次年度は、この点の工夫が必要となる。

・コロナ後の新しい取り組みも数多く始まっている。今後、評価結果の経年比較をすることでよりよい改善が図られると考える。

3 その他の意見

・学校評議員会、外部評価員会の会議を通して、新校長の経営の色が出てきたと評価されている。PTA活動の改善も積極的に行われるなど、コロナ後の変革が学校、PTAで行われていることは高く評価できる。

・地域が学校を信頼して協力する体制があり、近隣の企業や美術館等の教育環境を利活用した教育活動が成果を上げていると感じる。更なる取り組みに期待したい。